「国語科におけるアクティブ・ラーニングの視点による授業改善」公開授業日程表

・日　時　平成２９年１１月１４日（火）　１３：００～ １６：２０

・日　程　表

時限	時間	研修内容	研修講師等（敬称略）
	12:40～13:00	受付	
（会議室）	13:00～13:15	開会行事 ・会場校挨拶 ・来賓挨拶 ・概要説明 「グループ協議の進め方について」	小牧南高等学校 校長　小塩　卓哉 高等学校教育課 指導主事　伊藤　君江 総合教育センター 教科研究室長　近藤　哲史
（　移動　）			
第５時限 （視聴覚室） 本館棟４Ｆ 西の階段からお上がり下さい	13:20～14:10	公開授業 ３年生（文系） 国語科　古典Ｂ 「無名抄」の学習のまとめを、短歌の創作と相互批評を取り入れたアクティブ・ラーニング形式で行います。	授業者 小牧南高等学校 教諭　青　ちづる
（社会科室） 本館棟４Ｆ 東の階段からお上がり下さい		２年生（文系） 地歴公民科　日本史Ｂ 古代史の史料を生徒と読み解きながら、歴史上の出来事の背景や本質をアクティブ・ラーニングの要素を取り入れて探っていきます。	授業者 小牧南高等学校 教諭　石川　直大
（　会場準備の間休憩→控室：書道室）			
第６時限 （視聴覚室） （社会科室）	14:20～15:20	グループ研究協議 ５～６人のグループに分かれ、「グループ協議の進め方について」に従って、授業改善に資する協議を行います。	ファシリテーター 総合教育センター 教科研究室長　近藤　哲史 小牧南高等学校 教諭　櫻井　正昭
（　休憩・移動　）			
第７時限 （会議室）	15:30～16:20	パネルディスカッション 「授業改善　小牧南高校の取組をめぐって」 ・授業者のコメントと質疑 ・全体協議 ・ご指導、ご助言 ・会場校謝辞	［授業者］ 小牧南高　教諭　青　ちづる 小牧南高　教諭　石川　直大 ［指導・助言者］ 中京大学文学部 教授　酒井　敏 高等学校教育課 指導主事　伊藤　君江 総合教育センター 研究指導主事　澤口　文利 ［司会］ 小牧南高　教頭　瀬尾　学
	16:20～	諸連絡 アンケートにご協力下さい。	

※　会場校からのお願い

- 研究協議の進行上、勝手ながら、座席・研究討議の班を指定させていただきました。各自でご確認いただき、ご移動下さい。なお、名簿の管理についてご配慮をお願いします。
- 会議室から公開授業・研究協議の会場へは、貴重品・筆記用具等を身につけてご移動下さい。会議室は第７限のパネルディスカッション開始まで施錠いたします。
- 本館棟の配置図は裏面をご覧下さい。緊急の際には、本校職員の誘導に従って下さい。
- アンケート用紙を付けさせていただきました。今後の研究進展の参考にさせていただきますので、感想・ご意見をお寄せ下さい。本日の最後に回収いたします。

研究協議の進め方

目的	グループ協議を通して生まれた疑問を、ホワイトボードを活用して、授業者と共に解決していくことで、授業改善に資することを目指す。

■形　態　　全体→グループ→全体
※グループの分け方：参加者名簿参照。例：国１、社２は国語１班、社会２班を示す。

■準備物　　□ホワイトボード（各グループ１枚・縦置き、横書きで使用）
□ホワイトボード用のペン（各グループ３色×１～２本）・クリーナー
□グループ研究協議用ワークシート（Ａ４、国語：２枚、社会：１枚）

●研究協議前

○公開授業前

・学習指導案等に、授業者が授業後に協議して欲しい内容を明記する。

○公開授業観察

・参観者は、生徒の言葉が聞こえ、活動が見える位置で観察をする。
・前項の「授業後に協議して欲しい内容」に関する場面においては、授業者の発問・支援だけではなく、生徒の学びも観察し、メモをとっておく。
・グループ研究協議用ワークシート１枚目のルーブリックを参観者も実際に記入する。
・グループ研究協議用ワークシート２枚目の「ルーブリック」と「生徒の学び」について、それぞれ「良かった点」「改善点」「質問」を記入する。（国語）
・グループ研究協議用ワークシートに従って、「良かった点」「改善点」「質問」を記入する。（社会）

●研究協議　（ファシリテーター　国語：近藤　社会：櫻井　の進行に従って協議を進める）

流れ	進め方	留意点等
1　研修の説明及び授業者自評 【全体】（７分） ４分＋３分	○目的と流れについて説明する。 ○授業者が簡潔に自評する。	○目的は上記「**目的**」参照 ○流れは左欄「**流れ**」参照
2　協議 【グループ】（30 分）	○各グループで、主に「授業後に協議して欲しい内容」に関して、「良かった点」「改善点」「質問」の３項目について協議し、ホワイトボードにまとめる。 ○意見交換しながら全員のメモした内容を集約できたら、全体発表に向けて適宜整理する。	○各グループで進行役、記録者を決める。1人1回あたりの発言時間を決める等全員が発言できるように留意する。 ○グループの分け方は上記「**■形態**」参照 ○「授業後に協議して欲しい内容」に関し、「ルーブリック」「生徒の学び」について協議する。 ○ホワイトボードには、左記３項目に分けて、項目ごとに意見をまとめ記入する。 ○「質問」については、授業観察では自明とならず、授業者を含め全体で検討した方が良いと思われる内容を考える。
3　全体共有及び質疑 【グループ発表】 （20 分） ※各班 2 分× 10 班	○各グループ代表が、まとめた内容を発表し、全体で共有する。 ○各グループは、発表終了ごとにホワイトボードを前方黒板に掲示する。	○各グループの協議で重点的に取り上げられた事項を中心に発表する。 ○ファシリテーターは、各グループの発表の共通点や相違点を全体に意識させながら、会を進める。 ○「質問」については、次時のパネルディスカッションで授業者や助言者が回答する。
4　諸連絡 【全体】（３分）	○パネルディスカッションの予告をする。 ○会議室へ移動する。	○（パネルディスカッションでの留意点） 国語と社会を合同で行う。全体を巻き込んでの課題解決を心掛ける。研究協議で焦点化された課題について、各自の実践や経験を全体に向けて紹介し、集合知による解決策を模索する

■ホワイトボードへの記入について（各グループ１枚・縦置き、横書きで使用）

良かった点	
改善点	
質問	

※　左の配置に従って記入して下さい。

字は小さすぎないように、強調点は適宜色を変える。

「国語科におけるアクティブ・ラーニングの視点による授業改善」公開授業

２０１７．１１．１４
於　：　小　牧　南　高　校
１３：００～１６：２０

１　開会行事　１３：００～１３：１５

２　公開授業　１３：２０～１４：１０

〈国語〉

授業者：青ちづる　　古典Ｂ（３年２組　文系クラス）　　於：視聴覚教室（本館棟４階）

授業内容：

心情語を用いずに短歌を創作し、それを相互評価することによって、『無名抄』「俊成自讃歌のこと」のまとめとする。本時では、グループごとに心情語を用いずに創作した短歌を発表させ、その他のグループには、その短歌に込められた心情や状況を考えさせた。司会・進行も生徒が行った。

授業者反省：

生徒は、日頃からアクティブ・ラーニング型の授業に慣れているため、いつもどおりの伸び伸びとした学習態度であった。司会・進行の生徒たちの活躍により、スムーズな授業展開となった。さまざまな個性を認め合うクラスの雰囲気が生かされたように感じられた。教師側の一番の反省点としてはルーブリックが効果的に機能しなかったという点が挙げられる。以前から短歌創作のルーブリック作成には苦慮しており、まだまだ改善すべき点が多いため、実践を重ねてよりよいものを見つけていきたい。

〈地歴公民〉

授業者：石川直大　　日本史Ｂ（２年１組　文系クラス）　　於：社会科教室（本館棟４階）

授業内容：

文学作品の史料「竹取物語」「土佐日記」をグループで読み解きながら、国風文化成立の背景にかな文字が与えた影響について考察させた。また、極楽や地獄のイメージ、絵図を用いて国風文化の時期に流行した浄土教・末法思想についても、グループで考察・発表を行なわせた。授業者からの一方的な講義ではなく、生徒同士で与えられた資料を基に話し合いを行なっていく形式で、歴史の一端を学ばせた。

授業者反省：

普段から資料を与えて、生徒同士で考察させていたこともあり、生徒同士の活動は比較的スムーズに行えていた。歴史の出来事・用語を普段とは違った切り口で伝えることができたことは、今回に限らず今後も継続していきたい。しかし、考察した結果を自ら評価するためのルーブリックを生徒に提示することを失念したため、全くルーブリックを用いることができなかった点は一番の課題である。また、用意した内容を１時間でやりきることができず、最後に時間が足りなくなってしまった。時間配分を上手に工夫する必要があった。

３　グループ研究協議　１５：１５～１６：１０　　於：視聴覚教室（国語）、社会科教室（地歴公民）

「グループ協議の進め方」に従い、６人程度の各グループで、主に「授業後に協議して欲しい内容」に関して「良かった点」「改善点」「質問」の３項目について協議し、ホワイトボードにまとめ、全体発表で共有した。

〈国語〉

・ルーブリックが分かりやすい。生徒が評価できる力をつけることも必要である。初めの数班は、教員も一緒にその場で評価を行ってみる工夫などをする。
・どこまでを心情に直結する表現とするか、線引きが難しく評価の際に曖昧さが残るので、どのように明確にするかが課題である。「感情語辞典」「場面設定辞典」「語感辞典」「空想世界構築辞典」などを使用してみてはどうか。
・心情語を入れた歌と心情語を用いずに表現した歌の両方をそれぞれ作らせ、「遠回しに表現することがなぜ良いのか」ということも考えさせたい。
・歌の解釈は一問一答クイズで終わるのではなく、他の読みもなかったか、細かい部分が伝わっているか、まで広げたい。そして読み手と異なる解釈が出て来たら、どのように練り直せば良いか意見を出させるなどの、学びの深まりがほしい。
・最終的に古典にどのように落とし込むか。次時の振り返りでは、ルーブリックでの評価を見直し、『無名抄』本文に戻るとともに、他の意見を紹介する。

〈地歴公民〉

・授業内容としては、テーマ２つを扱うには時間が不足した。
・本時の目標とルーブリックの関連性に疑問を感じた。ルーブリックのテーマ設定や表現を改善する。また、ルーブリックの評価規準の設定の甘さが目立った。A評価とB評価の境目が曖昧であり、その区別をいかにしていけば良いかが大切である。
・ルーブリックが時間の関係で活用できずに終わっていた。そこをなんとかするべきであった。
・教師の発言に対して生徒の「なるほど」「そうか！」という表情がみられた。
・日本史では公民と比べると教材を通した深い学びの題材を見つけることに苦労することが多い。
　協議を通して、生徒の関心を引き出す点では成功した授業であったし、提示された教材をどう扱うか考えていく必要がある。
・ベテランの先生のアクティブ・ラーニングに対する理解度や必要性の認識等、大きな差がある。

４　パネルディスカッション「授業改善　小牧南高校の取組をめぐって」

　　１５：３０～１６：２０　　於：会議室（本館棟２階）

（１）中京大学酒井先生より

・生徒の相互評価において、点数に差が出なかった。心情に直結する表現が多かったが、クラス内の共感が働き、うまくいかなかったようである。次のステップとして、グランプリとなった歌について質問や意見がないか、自分たちの共感で評価を曲げていなかったかを振り返らせるとともに、どこまでが心情に直結する表現かという基準を考えたり、直結表現の言い換えを確認させたりする。
・ことばを大事にさせる。クラス内で共有している思い出を詠んだ歌では、共感によって良い点数が付い

てしまった。誰がその歌を見ても、心情が正しく伝わる歌にするための言葉を探させる必要がある。このことは、現代社会においても重要となる力である。自分の書いた文章を、ものの見方考え方の異なる人が見たり聞いたりした場合、自分の意図と全く違って捉えられてしまう可能性がある。誰が読むか分からない状況で「書き言葉」を用いて表現し、相手に正確に届かないもどかしさを積極的に経験させることで、より良い表現を探し、語彙が増え、ことばの伝わり方の認識を深めることにつながる。

（２）アクティブ・ラーニングの効果

・授業内容の焦点化が必要である。対象となる教材で何を身につけさせたいか１つに絞り、他はそぎ落とす。授業のねらいを提示すると生徒は意欲的になる。「おもしろい、やりたい」と思わせる工夫をする。

・１回だけでは効果がないので、継続性をもって繰り返し、以前より良くなった実感をもたせる。

・生徒が能動的に楽しんで授業をするだけではなく、教員自身にも効果があり、どのように授業をするか、新しい試みを考えるようになった。生徒の変化は必ずしも数値で出るわけではないが、教員の変化は確実に起こる。生徒にとってもアクティブ・ラーニング型が自然となっていけば、学校の雰囲気も変わっていく。

（３）今後心がけることや目指す生徒像

・生徒に「考えさせる」授業を行う。教員が説明してしまうと、発見する楽しみを奪うことになる。その一方で、知識を教える部分は教え込むことも必要である。大切な部分はあえて教員が一歩引き、気づくと楽しい部分・印象に残したい部分を焦点化し考えさせることで授業の山を作る。「分からないことが分かるようになった」より上の、生徒自身が成長を実感できることを意識する。

・対話的な授業とは、生徒同士だけでなく、教員と生徒も含む。思考が深まるような発問や対話を行う。ただし一部の生徒のみとの対話にならないように注意する。生徒が主体的に取り組むためには、普段からの生徒との人間関係作りも重要。